



日本山岳遺産基金

10年のあゆみ



日本山岳遺産基金
JAPAN MOUNTAINS HERITAGE FUND

美しい山を次世代に

山の溪谷社

これまでの主な活動

日本山岳遺産基金では、日本の山々がもつ自然と文化を次世代につなげるため、「山岳環境保全」「次世代育成」「安全登山啓発」をテーマに、さまざまな活動を行ってまいりました。これまでの当基金の主な活動を紹介します。

Activity 01

日本山岳遺産の認定と助成

山岳環境保全 次世代育成 安全登山啓発

「豊かな自然環境」や「人と自然の関わり」をもつ山や山岳エリアを「日本山岳遺産」として認定し、「山岳環境保全」「次世代育成」「安全登山啓発」活動を行っている団体に対して一定額の助成金を拠出し、支援しています。アドバイザーボードの審査のもと、2019年までに日本各地の計35箇所・団体を認定し、助成して

まいりました（詳細はP8以降で紹介しています）。また、毎年開かれる「日本山岳遺産サミット」では、認定地の活動紹介や当基金の一年間の活動報告に加えて、当基金の理念に合致した講演会を開催。日本の山々がもつ豊かな自然・文化を未来に継承していくためにすべきことを共有する場を設けています。



Activity 02

トラッシュチャレンジ マナー&クリーンアップチャレンジ

山岳環境保全 安全登山啓発



2010～11年は協賛企業のご協力を得て、登山者が多く集まる山岳地域でゴミ袋を登山者に配布し、ゴミ拾いを呼びかける「トラッシュチャレンジ」を開催しました。また、2012年からは、安全登山・マナー向上啓発を意識した「マナー&クリーンアップチャレンジ」に変更し、登山届の提出、自然環境やほか登山者への配慮、山のトイレへのチップの協力などを呼びかけました。

Activity 04

北アルプス 安全登山アピールの後援

安全登山啓発



北アルプスを囲む長野県、富山県、岐阜県の山岳遭難救助隊や自治体などで構成される「北アルプス三県合同山岳遭難防止対策連絡会議」は、毎年東京で「北アルプス安全登山アピール」を開催しています。北アルプスで多発している山岳遭難の事例紹介や遭難しないためのアドバイスを紹介し、安全登山を呼びかけています。当基金は本イベントの企画・運営に協力しています。

Activity 03

東北の高校生の 富士登山

次世代育成



東日本大震災からの復興を担う東北の若者に勇気と自信をもってもらおうと、登山家の田部井淳子さんとともに、福島県を中心とした被災地の高校生の富士登山を支援してきました。2016年に田部井さんが亡くなられた後も田部井淳子基金が主導となり活動は続いています。日本山岳遺産基金は後援という形で東北の高校生の富士登山を支援しております。

Activity 05

『山岳遭難ピンチカード』の配布など

安全登山啓発



安全登山啓発のための冊子なども多数制作しております。これまで、登山中の万が一のときの対処法をわかりやすくまとめた『山岳遭難ピンチカード』、山で遭遇する野生生物への対処法を記載したリーフレット『山で本当に危険な生物 ～クマ・ハチ・マダニ～』などを制作しました。安全登山啓発のため、これらを登山ショップや山岳イベント会場などで配布しました。

活動年表

2010年7月に設立した日本山岳遺産基金は、おかげさまで10周年を迎えることができました。
ここでは、その活動の足取りを年表にまとめてご紹介します。

年	月	活動内容	賛助会員数
2010	7	日本山岳遺産基金設立 当基金のウェブサイトを開設	法人賛助会員1社 個人賛助会員3名
	8	『山と溪谷』にて、日本山岳遺産キャンペーン2010を実施。「親子登山へのいざない」などを掲載	
	9	「親子のエコ登山ツアー」「トラッシュチャレンジ」を北アルプス・白馬エリアで同時開催 「山の思い出 フォトプリント&フォトブックコンテスト」実施	
	11	第1回日本山岳遺産サミット in 山梨（特別講演：戸高雅史氏）を開催 檜形山、小金沢シオジの森、乙女高原、石鎚山の4箇所を日本山岳遺産として認定	
2011	5	『日本山岳遺産基金通信 No.001』発行	法人賛助会員2社 個人賛助会員2名
	7	『日本山岳遺産基金ニュース Vol.1』制作・発行（年2回、Vol.6まで継続） 東日本大震災で被災した宮城県の高専山岳部・ワンダーフォーゲル部に登山装備を支援 ミウラ・ドルフィンズと共催で宮城県塩竈市の離島の小中学生を「親子で臨む富士登山」に招待 「親子の唐松岳登頂ツアー」に被災地親子を招待	
	8	社団法人日本山岳協会（現 公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会）主催「ジュニア登山 in 立山2011」へ助成 「トラッシュチャレンジ2011」を開催（北アルプス・白馬エリア） 『山と溪谷』にて、日本山岳遺産キャンペーン2011実施。「親子登山の推進と東日本大震災支援」などを掲載	
	11	早池峰山、九州中央山地五家荘エリアの2箇所を日本山岳遺産として認定 第2回日本山岳遺産サミット（特別講演：三浦雄一郎氏・豪太氏）を開催	
	12	『日本山岳遺産基金通信 No.002』発行	
	6	小金沢シオジの森を訪ねる登山ツアーを後援 『日本山岳遺産基金通信 No.003』発行	
2012	7	HAT-J主催「東北の高校生を日本一の富士山へ」に協力 山岳関係団体にゴミ袋を20万枚配布 「マナー&クリーンアップ・チャレンジ2012」を開催（尾瀬）	法人賛助会員15社 個人賛助会員2名
	8	『山と溪谷』にて、日本山岳遺産キャンペーン2012を実施。「私は見た！マナーの悪〜い登山者の実態」などを掲載 社団法人日本山岳協会の次世代育成活動に助成金を拠出（2017年度まで継続）	
	9	『山岳遭難ピンチカード』を制作・配布	
	11	第3回日本山岳遺産サミット（特別講演：野口 健氏）を開催 夕張岳、七時雨山、臥龍山の3箇所を日本山岳遺産として認定	
	12	『日本山岳遺産基金通信 No.004』発行	
2013	4	個人寄付の受付を開始	法人賛助会員18社 個人賛助会員2名
	7	「東北の高校生の富士登山2013 登ろう！日本一の富士山へ」を田部井淳子氏と共催 『日本山岳遺産基金通信 No.005』発行 『山岳遭難ピンチカード』4万枚配布達成	
	8	「マナー&クリーンアップ・チャレンジ2013」を開催（南アルプス・芦安駐車場、同・北沢峠） 『山と溪谷』にて、日本山岳遺産キャンペーン2013を実施。「よみがえれ檜形山！」などを掲載	
	10	第4回日本山岳遺産サミット（特別講演：田部井淳子氏）を開催 アポイ岳、金華山、船窪岳、大台ヶ原大杉谷の4箇所を日本山岳遺産に認定	
	12	『日本山岳遺産基金通信 No.006』発行	
2014	5	「マナー&安全登山キャンペーン」を開催（陣馬山）	法人賛助会員19社 個人賛助会員2名
	6	『日本山岳遺産基金通信 No.007』発行	
	7	「北アルプス安全登山アピールin東京」を後援 「東北の高校生の富士登山2014 登ろう！日本一の富士山へ」を田部井淳子氏と共催 「マナー&クリーンアップ・チャレンジ2014」を開催（北アルプス・白馬エリア、南アルプス・北沢峠）	
	8	『山と溪谷』にて、日本山岳遺産キャンペーン2014を実施。「日本山岳遺産基金の活動を振り返る」などを掲載	
	10	吾妻山、楢ノ峰、徳本峠の3箇所を日本山岳遺産に認定	
	12	『日本山岳遺産基金通信 No.008』発行	



第4回日本山岳遺産サミットで「高校生との富士登山」を語る故・田部井淳子さん



「北アルプス安全登山アピール」で安全登山を呼びかける山岳警備隊・山岳遭難救助隊の皆さん



「マナー&クリーンアップチャレンジ」では、登山者に安全登山と環境保全を呼びかけてきました



遭難だけでなく、怪我や悪天候への対処法も書かれた『山岳遭難ピンチカード』

年	月	活動内容	賛助会員数
2015	1	賛助会員の名入れ版『山岳遭難ピンチカード』を配布開始	法人賛助会員22社 個人賛助会員2名
	2	第5回日本山岳遺産サミットを開催（特別講演：小泉武栄氏） 5年間の活動をまとめた『日本山岳遺産基金 5年のあゆみ』を制作・発行	
	6	『日本山岳遺産基金通信 No.009』発行	
	7	「北アルプス安全登山アピールin東京」を後援 「東北の高校生の富士登山2015 登ろう！日本一の富士山へ」を田部井淳子氏と共催	
	8	「マナー&クリーンアップ・チャレンジ2015」を開催（北アルプス・白馬エリア） 『山と溪谷』にて、日本山岳遺産キャンペーン2015を実施。「ライチョウ保護を通じて考える日本の山岳環境」を掲載 「山Qプロジェクト」の寄付金を受け入れ	
	11	南木曾岳、三嶺の2箇所を日本山岳遺産に認定	
2016	2	第6回日本山岳遺産サミットを開催（特別講演：中村浩志氏） 「東北の高校生の富士登山2016 登ろう！日本一の富士山へ」を田部井淳子氏と共催 『日本山岳遺産基金通信 No.011』発行	法人賛助会員24社 個人賛助会員1名
	7	「マナー&クリーンアップチャレンジ2016」を開催（北アルプス・徳沢） 『山と溪谷』にて、日本山岳遺産キャンペーン2016を実施。「国立公園の今を考える」を掲載 『山で本当に危険な生物』を発行・配布開始	
	10	「北アルプス安全登山アピールin東京」を後援 美瑛富士、嘉穂アルプスの2箇所を日本山岳遺産に認定	
	12	『日本山岳遺産基金通信 No.012』発行	
	2	第7回日本山岳遺産サミットを開催（特別講演：山崎晃司氏） 『山で本当に危険な生物』改訂版を制作・発行	
2017	6	「北アルプス安全登山アピールin東京」を後援 「東北の高校生の富士登山2017 登ろう！日本一の富士山へ」を後援 『日本山岳遺産基金通信 No.013』発行	法人賛助会員23社 個人賛助会員1名
	7	『山と溪谷』にて、日本山岳遺産キャンペーン2017を実施。「山のトイレを考える」を掲載	
	10	二ツ森、岩手山、三ツ峠、霧ヶ峰、入笠山、伯耆大山の6箇所を日本山岳遺産に認定	
	12	「中央日本四県サミット グレーディング活用セミナー」を後援 『日本山岳遺産基金通信 No.014』発行	
2018	2	第8回日本山岳遺産サミットを開催（特別講演：高槻成紀氏） 「北アルプス安全登山アピールin東京」を後援	法人賛助会員17社 個人賛助会員1名
	6	「東北の高校生の富士登山2018 登ろう！日本一の富士山へ」を後援 『日本山岳遺産基金通信 No.015』発行	
	7	「マナー&クリーンアップ・チャレンジ2018」を開催（北アルプス・徳沢） 『山と溪谷』にて、日本山岳遺産キャンペーン2018を実施。「日本の山とシカ問題」を掲載	
	11	大雪山 黒岳、トムラウシ山、飯豊山、鹿沼市 岩山の4箇所を日本山岳遺産に認定	
	12	『日本山岳遺産基金通信 No.016』発行	
2019	2	第9回日本山岳遺産サミットを開催（特別講演：工藤 岳氏） 当基金のウェブサイトをリニューアル	法人賛助会員14社 個人賛助会員1名
	3	「北アルプス安全登山アピールin東京」を後援	
	7	「東北の高校生の富士登山2019 登ろう！日本一の富士山へ」を後援 『山と溪谷』にて、日本山岳遺産キャンペーン2019を実施。「どうなる!? 日本の登山道」を掲載	
	11	コロナスポーツウェアジャパンの「GEARLOOP MARKET」売上金寄付を受け入れ 高田大岳、大笠山、伊吹山、比叡山・比良山地、脊振山系の5箇所を日本山岳遺産に認定	
2020	12	『日本山岳遺産基金通信 No.017』発行	
	2	第10回日本山岳遺産サミットを開催（特別講演：愛甲哲也氏） 10年間の活動をまとめた『日本山岳遺産基金 10年のあゆみ』を制作・発行	

日本山岳遺産基金 アドバイザリーボード 田中文男さん × 日本山岳遺産基金 初代事務局長 久保田賢次さん 対談

日本山岳遺産基金 10年を迎えて

日本山岳遺産基金発足当時からアドバイザリーボードを務める田中文男さんと当基金初代事務局長の久保田賢次さんにこれまでの活動を振り返っていただきました。

永田 今回は、日本山岳遺産基金のこれまでの10年を振り返ってきたいと思います。まずは、2010年の当基金の立ち上げ当時のお話をお聞かせください。

久保田 山と溪谷社が創立80周年を迎えた2010年に、親会社のインプレスホールディングスと組織したのが日本山岳遺産基金です。山と溪谷社はそれまでも山の自然保護活動としてゴミ袋を配布するなどの活動をしていたのですが、「山岳環境保全をなさっている皆さんにもっと総合的な面で貢献したい」ということで当基金を立ち上げたんです。立ち上げにあたっては、田中さんはじめ有識者の方にアドバイザリーボードとしてお力添えいただきました。

永田 今でこそ10年続いている当基金ですが、立ち上げ当初は苦労もあったかと思えます。

田中 そもそも当基金の趣旨を皆さんにきちんと理解しても



Profile
田中文男 (たなか・ふみお)

1934年、茨城県生まれ。日本山岳協会会長、埼玉県山岳連盟会長などを経て、現在は日本山岳・スポーツクライミング協会顧問。日本山岳遺産基金発足当時から同基金のアドバイザリーボードを務める。



らうのに時間がかかるかもしれない、という不安はありましたね。自然保護が必要な場所を自分たちで選び出し、守り、育てる。その理念には感銘を受けたのですが、それを登山界に理解してもらい、広く浸透させるにはどうしたらいいのか。いろいろ頭を悩ませていたかと思えます。

永田 私は2011年から本事業に参加しているのですが、チラシをつくって市町村役場や県庁の自然保護課に毎年地道に配布したり、HPで紹介したり、活動理念をわかってもらうのはなかなか大変でした。

田中 広い意味で「ゴミ拾いの自然保護からの脱却」につながったと思うんです。山が汚れているからみんなでゴミを拾おうか、という発想はそれまでもありました。その先の山の環境を恒久的に保つ方法を一緒になって考えようよ、ということですね。登山道整備であるとか、鹿防柵の設置であるとか……。近年は皆さんに理解いただけるようになってきていると思いますが、最初は山と溪谷社さんも山岳関係者も不安に思っていたかもしれません。

久保田 そうですね。最初は山梨県にご協力いただいてシンポジウムを開催しましたね。そのときは県の山岳団体の方、自然保護関係で活動されている方、メディアの方など皆さんにご参加いただき、そのご協力のおかげで当基金の活動を広められました。

永田 認定地を選ぶにあたって、どのような選定基準で選んでいるのか、特に気をつけていることなどを教えていただけますか。

田中 最初のころはとにかく団体が公に認知されているか、あるいは行政を含めてバックアップの体制をとってもらえるのが重要でした。環境保全のためにお金が必要だという申

請がきたとしても、すべてが一過性の人件費で消えてしまうような事業は悲しすぎるんじゃないか。その活動を行政がバックアップする、あるいは活動が登山者に広く認知されて、その山へ来ていただくという、将来のことを見越した団体を認定していかなければならないと考えておりました。その場しのぎで独りよがりな活動にならないためには、行政や登山界を巻き込まなければならぬんです。

久保田 当基金の骨子となっているのは「山岳環境の保全」「次世代の育成」「安全登山の啓発」の三本柱ですが、その柱を実際にどういう風に考えて運用していったらいいのか、それは田中さんはじめ周囲の人の意見を頂戴して形にしていきました。

田中 活動が自己満足に終わらないことが重要です。それから今後も継続して認定団体のの方々が活動していくなかで、認定を受けたということに誇りをもってもらえる活動であってほしい。だからずっと続いていくことで価値が生まれるような活動を助成してきました。気がつけば10年経って、多くの場所が認定されました。当基金が認知されてきたことで毎年認定申請への応募が絶えないというのは本当にありがたいことです。

永田 何年か前に認定させていただいた団体の方が、過去の認定団体とつながっているという話を聞きました。認定地同士のつながりはとても励みになります。助成は一度きりですが、各団体の広報活動で支援できればと考えております。続いて、これまでの活動で印象深かった出来事などございますか。

田中 2013年に認定された^{きんか}金華山(宮城県)は印象深いですね。東日本大震災の被害から訪れる人が少なくなった、あるいは不便になっている状況を改善したいという、その時代にあった応募でした。我々が「こういうところを選ばせていただきましたよ」と発信して、その地を訪れる方が増えてくれればうれしいですね。また、やはり応募していただいた遺産地候補を可能なかぎり多く認定したいと思っているわけですが、本当に多く応募がきた年は泣く泣く落としたりしたところがいくつかあったことも強く覚えています。

久保田 私も長く事務局長をやらせていただいていたのですが、実際に認定地が助成金で活動をして結果が出てくるのは1年後じゃないですか。たとえば登山道整備をされている団体でしたら、「日本山岳遺産基金の助成によって整備されました」と広報していただいたりとか、地元の新聞に認定団体の活動が掲載されたりとか。そういう風に支援した結果を1年後に知ることができたときはう

れしかったですね。活動の手助けをしているということを実感できるのがとても励みになりました。

永田 ありがとうございます。日本山岳遺産基金のこれまでの10年を踏まえて、今後の10年でどのような団体にしていきたいですか。

田中 今後も山を愛する人が一体となって活動する、それを支援する団体でありたいですね。山と人が一体になっているからこそ、山に対する憧れが生まれてくるわけです。生きている山と人がつながる場所が増えて、それが遺産地として未来まで守られていけば。なんにしても我々が目標に掲げなければならないのは今日を明日につなげるような作業です。日本山岳遺産基金がどういう目的で立ち上がったのか、それが語り継がなければならない。また、認定地は認定されただけで喜ぶのではなく、たとえば10年後に再度評価するような仕組みにもしていきたいですね。

久保田 最近偶然にも登山道整備活動をしている認定地にお邪魔することがあったんですが、そこを歩いている方が「道が歩きやすくなったね」とおっしゃっているのを耳にしました。それが遺産基金の助成によってよかったのかはわからないんですが、一般の登山者がそう感じてくれることがうれしかったです。そしてそれが活動のおかげだとわかれば、一般の人たちにも環境への配慮の意識が湧いてくるんじゃないかと思うんです。そのように自然環境や山岳文化への意識をもつきっかけになるような活動になればいいなと思います。

永田 本日はありがとうございました。



Profile
左/永田恵 (ながた・めぐみ)
日本山岳遺産基金事務局長。2011年から当基金の運営に携わる。

Profile
右/久保田賢次 (くぼた・けんじ)
『山と溪谷』編集長、日本山岳遺産基金事務局長などを歴任。現在は筑波大学生命環境科学研究科山岳科学学位プログラムに在籍。

日本山岳遺産認定地一覧

2019年度までに全国各地の35の山岳地域・団体を日本山岳遺産に認定し、助成金と広報による活動支援を行ってまいりました。



認定年度	認定番号	認定地	支援団体	助成内容	掲載ページ
2010年度	01	檜形山 (山梨県)	檜形山ネットワーク	『檜形山ネイチャーガイド』の発行など	P10
	02	小金沢シオジの森 (山梨県)	シオジ森の学校	水源の森での地域の子どもたちへの環境教育活動など	P10
	03	乙女高原 (山梨県)	乙女高原ファンクラブ	草原内の遊歩道整備	P10
	04	石鎚山 (愛媛県)	久万高原町	地域住民のキュレーター養成事業	P11
2011年度	05	早池峰山 (岩手県)	早池峰にゴミは似合わない実行委員会	避難小屋からのし尿の担ぎ下ろしと携帯トイレの普及啓発活動	P11
	06	九州中央山地 五家荘エリア (熊本県)	泉・五家荘登山道整備プロジェクト	登山道・道標の整備	P11
2012年度	07	夕張岳 (北海道)	ユウバリコザクラの会	活動25周年記念誌の発行	P12
	08	七時雨山 (岩手県)	七時雨口マンの会	ボランティアを活用した登山道整備事業	P12
	09	臥龍山 (広島県)	芸北自然保護レンジャー	子どもを対象とした環境学習(ブナ枯れ対策活動)	P12
2013年度	10	アポイ岳 (北海道)	アポイ岳ファンクラブ	高山植物保護のための調査機器購入	P13
	11	金華山 (宮城県)	特定非営利活動法人 FIRST ASCENT JAPAN.	自然災害復旧作業や登山道整備、クライミングエリア開拓等	P13
	12	船窪岳 (長野県・富山県)	船窪小屋・道しるべの会	登山道の維持整備活動	P13
	13	大台ヶ原 大杉谷 (三重県)	公益社団法人大杉谷登山センター	登山道整備と安全登山の啓発	P14
2014年度	14	吾妻山 (福島県)	吾妻山自然倶楽部	植生復元のための緑化ネット購入	P14
	15	鎌ノ峰 (長野県)	長野県大町岳陽高等学校山岳部	登山道整備のための器具の購入	P14
	16	徳本峠 (長野県)	古道・徳本峠道を守る人々	登山道整備のための備品、消耗品の購入	P16~17
2015年度	17	南木曾岳 (長野県)	南木曾山士会	ボランティアによる登山道の維持活動	P15
	18	三嶺 (高知県・徳島県)	三嶺の森をまもるみんなの会	環境教育用の『シカ食害15年史』の刊行など	P15
2016年度	19	美瑛富士 (北海道)	山のトイレを考える会	携帯トイレ普及のための冊子作成	P15
	20	嘉穂アルプス (福岡県)	嘉穂三山愛会	避難小屋の建設	P18
2017年度	21	ニツ森 (秋田県)	一般社団法人 白神コミュニケーションズ	外来植物駆除と安全登山講習による環境保全啓蒙活動	P18
	22	岩手山 (岩手県)	岩手山地区パークボランティア連絡協議会	外来植物駆除活動と登山道の補修	P18
	23	三ツ峠 (山梨県)	三ツ峠ネットワーク	自生植物の維持と植生回復作業	P19
	24	霧ヶ峰 (長野県)	霧ヶ峰草原再生協議会	外来植物の駆除や草原の保全再生	P19
	25	入笠山 (長野県)	入笠ボランティア協会	外来植物の駆除作業と山岳環境保全	P19
	26	伯耆大山 (鳥取県)	グラウンドワーク大山蒜山	自然体験学習のための環境マップ作成	P22
2018年度	27	大雪山 黒岳 (北海道)	一般社団法人大雪山・山守隊	登山道整備活動	P22
	28	トムラウシ山 (北海道)	新得山岳会	山岳環境保全	P22
	29	飯豊山 (山形県・新潟県・福島県)	特定非営利活動法人 飯豊朝日を愛する会	飯豊連峰裾川尾根における植生復元	P23
	30	鹿沼市 岩山 (栃木県)	機動パトロール隊	安全登山啓蒙活動など	P20~21
2019年度	31	高田大岳 (青森県)	十和田山岳振興協議会	登山道整備など	P23
	32	大笠山 (富山県)	五箇山自然文化研究会	登山道整備など	P23
	33	伊吹山 (滋賀県・岐阜県)	伊吹山を守る自然再生協議会	植生保護柵の修繕	P23
	34	比叡山・比良山地 (滋賀県・京都府)	比良比叡トレイル協議会	安全登山のための道標設置	P23
	35	脊振山系 (福岡県・佐賀県)	脊振の自然を愛する会	レスキューポイントの設置	P23

認定地の活動状況と今後の課題

2018年度までに30箇所(の山・山岳エリア)を日本山岳遺産に認定し、そこで活動する団体に助成金を拠出してまいりました。認定年度順に「認定団体の今」をご紹介します。

01 橿形山 [山梨県南アルプス市] 橿形山ネットワーク

認定年 2010年
助成金 120万円
助成内容 『橿形山ネイチャーガイド』の発行など

橿形山のアヤマ群落保全活動は南アルプス市が中心となり引き継がれています

山梨県自然記念物である橿形山のアヤマ群落が急激に消失したことから、橿形山の自然環境を再考し保全する取り組みを進めました。活動の初期は、橿形山シンポジウムの開催、希少種であるウサギゴウモリの保護、橿形山ネイチャーガイドの冊子発刊などを行いました。その後、橿形山ネットワークの活動は南アルプス市が中心となって引き継がれ、アヤマ群落復元に向けた防鹿柵の設置、継続的な植生調査の実施や巡視など、橿形山を愛する会の会員等と活動しています。地元の高校生たちも植生調査を実施しています。アヤマ群落の保全活動は2019年で12年を迎え大きな成果を上げています。

【今後の課題】 橿形山における生物多様性について地域が再考し取り組む時期が来ています。法的な規制等も行う必要性も検討していきたいです。



シカ食害防止ネットにより植生が復元されたアヤマの群落

03 乙女高原 [山梨県山梨市] 乙女高原ファンクラブ

認定年 2010年
助成金 11万円
助成内容 草原内の遊歩道整備

草原内の遊歩道整備をしました

認定後も草原保全と環境教育の活動を続けています。私たちの基本姿勢は、乙女高原の自然を継続的に観察し、見つけた「こと」や「もの」を起点に活動を広げていくことです。スマイルの種類が多かったことでスマイルのパンフレットを作り、9年間スマイル観察会を続けるうちに確認されたスマイルは31種類にもなりました。草花の減少とシカの増加との相関が疑われたので小さなシカ柵での実験を経て、全長1kmのシカ柵で草原全体を開きました。花の咲き乱れる草原

02 小金沢シオジの森 [山梨県大月市] シオジ森の学校

認定年 2010年
助成金 97万円
助成内容 水源の森での地域の子どもたちへの環境教育活動など



土壌生物の観察会の様子

市民や児童を対象とした啓発活動や、環境調査を継続しています

シオジ森の学校は、2006年に「森で遊び 森に学び 森を育てよう」を活動の基本理念として発足15年を迎えます。理念に賛同するスタッフにより、自然観察会や林業体験、キャンプなどの普及啓発活動を、市民や児童生徒に向けて講座を開講してきました。また、スタッフ独自の事業として、シカの食害調査やシオジの実生の育成などの調査や保全の活動にも取り組んでいます。助成金を糧に、動植物の研究者にも参加を求めました。シオジの木々の調査を含む生物の生態調査をもとに、ストーンペーパーを用いて「小金沢シオジの森マップ」を作成し配布しました。

【今後の課題】 近年、ササが枯れてシオジの森の生態系が変わりつつあります。その普及啓発活動の一環として、2020年には、シンポジウムと写真展等を開催したいです。



刈った草をコンクリート車運ぶ

が再生されつつあります。

【今後の課題】 メンバーの高齢化による運営の後継者探しと、学業が忙しい子どもたちとの関わり合いが課題となっています。



コミュニティ・キュレーターを養成

05 早池峰山 [岩手県宮古市] 早池峰にゴミは似合わない実行委員会

認定年 2011年
助成金 51万3000円
助成内容 避難小屋からのし尿の担ぎ下ろしと携帯トイレの普及啓発活動

早池峰を携帯トイレの山として世の中に伝えています

山頂トイレの状況と携帯トイレの必要性を一人でも多くの方々に認識してもらうことを目的に、助成金を使って、地元の子どもたちを中心にし尿処理の体験ツアーを行いました。また、作業の際の連絡手段用に無線機の購入、新パッケージのオリジナル携帯トイレ(早池峰エコパック)の制作、早池峰の魅力を伝える説明会などで使用するプロジェクターの購入に助成金を充てています。早池峰山の価値を県民の方々に伝えるとともに、多くのトイレ利用者の理解のもと、携帯トイレ専用の山とすることができました。

【今後の課題】 早池峰山の携帯トイレ専用化をいかに持続可能にしていくかが課題です。



し尿処理活動の体験をする地元の子どもたち

04 石鏡山 [愛媛県久万高原町] 久万高原町役場

認定年 2010年
助成金 72万円
助成内容 地域住民のキュレーター養成事業

事業で養成したキュレーターたちが活躍しています

「面河・石鏡キュレーター育成事業」への助成により、石鏡山系や面河溪で活躍できるガイド養成を行いました。その後、本事業に刺激を受けたガイドやガイドスキルをもったナチュラルリストが、エコツアーや動植物調査にかかわるようになりました。さらに、ほぼ同じ時期に発足した「面河溪を愛する会」が、面河溪の歴史ある景観やありのままの自然を守りつつ、老朽化した登山道の再生等に取り組むことで、石鏡・面河溪の観光振興に尽力しています。今後もツアーやモニタリング、登山道整備活動等により石鏡山の豊かな自然を次世代に繋ぎ、保全を進めていきたいと考えています。

06 九州中央山地五家荘エリア [熊本県八代市] 泉・五家荘登山道整備プロジェクト

認定年 2011年
助成金 49万円
助成内容 登山道・道標の整備



レスキューポイント標識のQRコードを張り替える

登山道整備により遭難事故減少につながりました

助成金を活用した事業(看板設置、登山道整備、登山地図の発行、活動記録公開)が追い風となり、登山客の増加と宿泊客も観光から登山目的の利用者が増えてきました。また、消防山岳救助隊との連携強化で「レスキューポイント」(看板設置、RP掲載地図発行)の整備も実現し、対象エリア内の遭難事故減少にもつながりました。

今後も継続した活動(道しるべテープ補強、道標や危険箇所ロープ設置など)を続けていく予定です。

夕張岳 [北海道夕張市・南富良野町] ユウパニコザクラの会

07

認定年 2012年
助成金 50万円
助成内容 活動25周年記念誌の発行

夕張岳の大自然を 次世代に残す活動をしています

助成金は当会の25周年記念誌の制作に使用させていただきました。当会では、国の天然記念物である「夕張岳の高山植物群落および蛇紋岩メランジュ帯」の指定地を中心としたフィールドにおいて、高山植物の盗掘防止監視活動をメインとした貴重な植物の保護と、夕張市から委託されている「夕張岳ヒュッテ」の運営と維持管理を行っています。また環境保全を通して、夕張岳の大自然のすばらしさを次世代に受け継いでもらうべく、地元地域との交流事業を13年間継続しています。

【今後の課題】 次を担う若手会員の参加が課題です。



ユウパニコザクラの会が管理する夕張岳ヒュッテ

七時雨山 [岩手県八幡平市] 七時雨ロマンの会

08

認定年 2012年
助成金 30万円
助成内容 ボランティアを活用した登山道整備事業



子ども交流会での鹿角街道散策

登山道整備により来訪者が増加。 植物の再生にも取り組んでいます

2012年の助成金で、「七時雨体験観光施設」裏手を流れる染田川へ連絡橋を架け、登山道の整備を行ったことにより、七時雨山・鹿角街道を訪れる際の起点が明確になり、多くの登山者や散策者が容易に七時雨山エリアの魅力に触れることができるようになりました。また、七時雨山九合目付近のガレ場に生育し絶滅が危惧されているガンコウラン、ミネウスユキソウの再生に取り組み、年々個体数の増加が図られるようになってきました。2019年の秋には七時雨西麓を通る鹿角街道が「歴史の道百選」に認定され、ますます来訪者が増えることが期待されます。

【今後の課題】 会員の高齢化による活動のマンネリや停滞が課題です。他団体との交流により新しい風を取り入れたいと考えています。



ナラ枯れ被害を調査する

臥龍山 [広島県山県郡北広島町] 芸北自然保護レンジャー

09

認定年 2012年
助成金 30万円
助成内容 子どもを対象とした環境学習（ブナ枯れ対策活動）

ナラ枯れの対策を中心に、 子供たちへの環境学習も行っています

芸北自然保護レンジャーは、臥龍山を含む芸北エリアの山々で環境教育活動を展開してきた団体です。近年では各地で被害が増え、同エリアでも深刻な問題になっているナラ枯れの対策も行っています。季節に応じて被害予防、処理、現地で種子採取・育苗、植樹を行います。助成金を活用して、小学生50名を招きナラ枯れ被害木の処理作業や森林の自然観察、ヤマネの巣箱がけなどを実施。自然と接する体験は、子どもたちの人格形成にも役立つと考えています。また、各種イベント時には、自然に接するときのルール・マナーの説明もしています。

【今後の課題】 児童対象のイベントを除き、作業参加者の高齢化が問題で若手参加者を獲得したいと考えています。



高山植物の再生のため、苗を植える中学生

アポイ岳 [北海道樺戸郡樺戸町] アポイ岳ファンクラブ

10

認定年 2013年
助成金 65万円
助成内容 高山植物保護のための調査機器購入

保護活動に加え、 自然のすばらしさを伝えるための見学会も開催

助成金は、ここ10年で激減したアポイ岳の高山植物を再生させるため、中学生が行う再生実験に活用しました。講師を招へいし、中学生に意義やノウハウを教えていただき、その活動は現在も中学校に受け継がれています。この活動を通じて、中学生やその保護者、そして地域住民がアポイ岳の高山植物が危機的状況であるという認識が広がってきています。認定後も登山道整備やパトロールなどの保護活動は継続していますが、これ以外にも私たちの活動や自然のすばらしさを知ってもらうための見学会なども始めています。

【今後の課題】 会員の高齢化が進んでいます。若い世代へのアプローチが課題です。

金華山 [宮城県石巻市] 特定非営利活動法人 FIRST ASCENT JAPAN.

11

認定年 2013年
助成金 40万円
助成内容 自然災害復旧作業や登山道整備、クライミングエリア開拓等

震災復興の一環として、 登山道整備、クライミングエリア開拓をしてきました

東日本大震災の震源地に一番近い島・金華山の復興のため、自然災害復旧作業、登山道整備、クライミングエリア開拓等を行ってきました。クライミングエリアは海外のプロクライマーも訪れ、国内外に広く紹介することができました。また、カシナガトラップという捕虫器を使用した東北では初めてとなるナラ枯れの対策を行い、ナラ枯れ拡大を防ぎました。今年は日本山岳スポーツクライミング協会自然保護総会を金華山に誘致し、全国から来てくださった約90名の方が、金華山の「みちのく潮風トレイル」のトレッキングを楽しみました。



ボルダリングエリアを開拓するクライマー

船窪岳 [長野県大町市・富山県富山市] 船窪小屋・道しるべの会

12

認定年 2013年
助成金 60万円
助成内容 登山道の維持整備活動



針ノ木古道への道標をつける

船窪小屋周辺の道を 長年にわたり整備しています

船窪小屋・道しるべの会では、船窪小屋周辺の登山道整備を行ってきました。船窪岳周辺はガレ場や崩壊地など難所があり、また東日本大震災の余震により登山道が崩れ、安全上の問題となっていました。助成金は、テント場上部のハシゴ付け替えと、七倉尾根上の栈橋付け替えのため、資材の購入費やヘリでの荷揚げ費用として使用しました。登山者の少ない七倉尾根のルートが安全に登れるようになりました。会員の高齢化などもあって道しるべの会自体は2018年2月に解散しましたが、その後も有志の手によって、道標の看板を付けたり、倒木を切ったりなど、七倉からの道の整備は続いています。



大杉谷の登山道を整備する

大台ヶ原大杉谷 [三重県多気郡大台町]

公益社団法人 大杉谷登山センター

認定年 2013年
助成金 40万円
助成内容 登山道整備と安全登山の啓発

大杉谷登山道の 維持管理を続けています

大杉谷登山歩道は2004年の台風21号によって大規模な崩壊が発生し、10年間の閉鎖を余儀なくされてきました。2014年、10年ぶりの全線開通に伴い、助成金を活用して危険箇所の洗い出し、対策強化を行いました。認定後も大杉谷登山道の維持管理、環境保全、山岳救助、広報活動などを積極的に実施しています。2019年10月からは大杉谷の自然環境、登山道の維持のために、大杉谷入山協力金の試行を開始しました。持続可能な登山道維持のあり方を模索しています。

【今後の課題】登山道維持のための資金及び人材不足です。

13

吾妻山 [福島県福島市]

吾妻山自然倶楽部

認定年 2014年
助成金 65万円
助成内容 植生復元のための緑化ネット購入

荒廃地には少しずつ緑が戻ってきました

私たちは「吾妻山のすばらしい自然を次の世代へ」伝える保全活動に取り組んでいます。助成金を利用して、懸案となっていた東吾妻山頂一帯のハイマツ群落保全作業を本格化することができました。山頂周辺の登山道沿いでは、過度の踏みつけによる植生消失とともに植物生育の基盤である土壌の流亡が進んでいましたが、階段状に丸太を設置する土砂止めや天然繊維製ネット張りなどの作業を実施してきた結果、荒廃地には少しずつ緑が戻ってきました。携わったボランティアのみなさんの手によるものです。これからも多くの方々とともに保全活動を進めていきます。

【今後の課題】保全活動の継続のため、地域関係者との連携が一層求められています。



階段状に丸太を設置して土砂止めをつくる

鍬ノ峰 [長野県大町市]

長野県 大町岳陽高等学校山岳部

認定年 2014年
助成金 20万円
助成内容 登山道整備のための器具の購入



登山道整備を山岳部員総出で行う

山岳部総出で登山道を整備しています

助成金を使って、ナタガマ、ノコギリ、ロープなどの用具を購入し、部員総出で継続的に登山道整備を続けています。本校山岳部には毎年1年生が入部してきますが、先輩から後輩へとこの事業が引き継がれ、登山やインターハイをめざすという通常の部活動に加えて、本校山岳部のもう一つの重要な柱として根付いています。高校時代にこういった社会貢献をすることが生徒たちの進路選択や次のステップへの礎となるとともに、鍬ノ峰は、山岳部の生徒たちにとって、自分たちを育ててくれた心の山となって輝き続けることでしょう。

15

南木曾岳 [長野県木曾郡南木曾町]

南木曾山士会

認定年 2015年
助成金 30万円
助成内容 ボランティアによる登山道の維持活動

一般登山者が参加できる 木製階段の修繕イベントを開催しています

南木曾岳の登山道は急峻で、山頂に近づくにつれ木製階段の数も多くなります。傾斜の厳しい登山道で木段は、登山者の体重をしっかりと支えてくれ歩行をサポートしますが、木段自体は損傷します。特に下りルートは損傷が激しいです。そこで一般の登山者の方に協力を呼びかけ、木段修繕に必要な木材の運搬をするイベントを行いました。助成金は主に資材購入やイベント運営経費に使用しています。今後もみなさんが安全に登山を楽しめるよう、また、南木曾岳と南木曾町をより多くの方に知っていただくために活動を続けていきます。

【今後の課題】担い手の不足です。登山道の維持修繕には終わりというものはありません。登山が好きな方々がいる限り、登山者の安全のため続けていけたらと思っています。そのためのメンバーを随時募集しています。



協力して木製階段の修繕作業を行う

美瑛富士 [北海道上川郡美瑛町]

山のトイレを考える会

認定年 2016年
助成金 30万円
助成内容 携帯トイレ普及のための冊子作成

美瑛富士避難小屋に待望の 固定式携帯トイレブースが設置!

2019年8月、環境省により美瑛富士避難小屋に待望の固定式携帯トイレブースが設置されました。2015～19年の夏期シーズン、環境省がテント型携帯トイレブースを試行設置。維持管理は北海道の山岳9団体が構成する「美瑛富士トイレ管理連絡会(当会が事務局)」が1～2週毎に分担しました。この協働活動によりティッシュや汚物の散乱が激減、ブースの有効性が認められ、固定ブースの設置に至ったものです。今後も連絡会構成団体が維持管理と登山者への広報に努めます。助成金は携帯トイレの購入や山のトイレマップの印刷代に使用しました。

【今後の課題】事務局運営委員の高齢化が進んでいるので、いかに若い世代に活動を引き継ぐかが課題です。

17

三嶺 [高知県香美市]

三嶺の森をまもる みんなの会

認定年 2015年
助成金 70万円
助成内容 環境教育用の『シカ食害15年史』の刊行など



2019年10月に行った防鹿柵のメンテと拡張

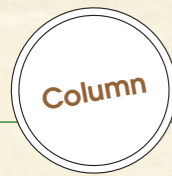
シカ食害の問題と対策を一冊にまとめました

シカ食害で傷んだ三嶺の自然を再生するために多様な活動(防鹿柵の設置、樹木保護ネット巻き、写真パネル展、シンポジウム、普及啓発用冊子の発行等)を展開してきました。助成金は活動10周年記念冊子『シカ食害で痛む三嶺の森 一再生への途と課題』(A4判・カラー・105頁)の発行に使用しました。県外を含む団体や個人に向けて、シカ食害の問題と対策について実態と科学的調査結果などを掲載し、今、シカの侵入が見られだした石鏡山系などが三嶺の二の舞にならないよう、参考にしてもらうことを狙いとしています。今後も、多様な活動を多くの市民参加のもとに継続して展開していきます。

19



携帯トイレブースの点検、小屋内外の清掃は1～2週毎に実施



地元の山岳事故をなくせ！ 鹿沼市・機動パトロール隊を訪ねて

栃木県・鹿沼市で山岳救助や登山道整備に活躍する、
若き隊員たち取材した。



案内してくれた機動パトロール隊のみなさん。左から、橋本尊広、茂木和樹、渡邊晃平

栃木県の鹿沼市には岩山がある。その名のとおり、凝灰岩が露出する岩の山で、低山ながら本格的な岩峰歩きが楽しめる。そして、岩の山の宿命として、毎年滑落事故が起きている山でもあった。

この岩山を中心に、鹿沼市を中心に登山事故防止や安全啓発活動を行っているのが「機動パトロール隊」だ。発足は2008年、当時中学1年生だった茂木和樹ら5人で結成。最初はゴミ拾いや町のパトロールからはじまり、今では山岳救助や登山道整備、安全登山啓発活動もしている。この功績が評価され、17年に岩山が「日本山岳遺産」に認定された。

現在、隊員数は新人隊員含め53人。最年長は24歳で隊長を務める茂木和樹、最年少は11歳である。鹿沼市を守る若き隊員たちの活動を知りたいと思い、連絡を取ると、「せつかくなので」と岩山を案内してもらうことになった。

＊

同行してもらったのは隊長の茂木含め機動パトロール隊の3人だ。

「岩山の岩は凝灰岩で、雨が降った後はとても滑りやすくなります。土の部分も粘土質で足をとられやすいので注意してください」

先導する茂木が足元の土を指し示しながら説明してくれる。昨日の雨の影響で、樹林の影になっている地面は水をたっぷりと含んでいた。

30分と経たずして最初の岩場にたどり着いた。三点支持で岩に取り付く。ステップ用に平坦に切られた場所もあるが、基本的には自然そのまま。鎖やロープなどの人工物の設置は最小限に。なるべく山に根付いた自然を利用して道を整備しているらしい。

「木が大きな岩の上に根を張っている場所が多く、強い雨風に曝されたときに根本から倒れやすいんです。土砂崩れも多いですね。そのたびに倒木をチェーン

ソーで切ったり、道をつけ直ししたりしています」

幼いころから岩山に何百回と登っているという茂木は、山のことを知り尽くしていた。「運がよければオオルリ（青い羽が美しい夏鳥）が見られますよ」「お地蔵様が描かれた板が岩陰に数箇所置かれているので探してみてください」と、岩山を楽しむための豆知識をにこやかに教えてくれる。熟練のガイド顔負けの山案内に舌を巻く。

細かなアップダウンを繰り返して、2時間ほどで最高峰の一番岩に着いた。山頂からは鹿沼市街地がよく見えた。



土砂崩れによって崩壊した道を整備する隊員たち

しかし、下山も気を抜けない。事前に「最大の難所」と聞いていた猿岩の鎖場へ。急斜な大岩に太い鎖がつけられており、数メートル先から岩は垂直に近い岩壁となっていた。安定した登山道に下りるまで約70メートル下るといふ。想像以上の斜度が私の足をすくませた。

「これはちょっと……」と口ごもる私を見て、茂木が「やめておきましょうか」と、昨年末に整備したという迂回路へ案内してくれた。

「猿岩は滑落事故が何度も起きている場所なんです」滑落した人の救助や、猿岩の途中で恐怖から動けなくなった人を担いで降ろしたことが何度もあるという。

「岩山は『ハイキングコース』と紹介されることがありますが、岩場の連続する山です。どこの山でも同じことだと思いますが、下調べと岩稜装備の用意はしっかりとってきてほしいです」

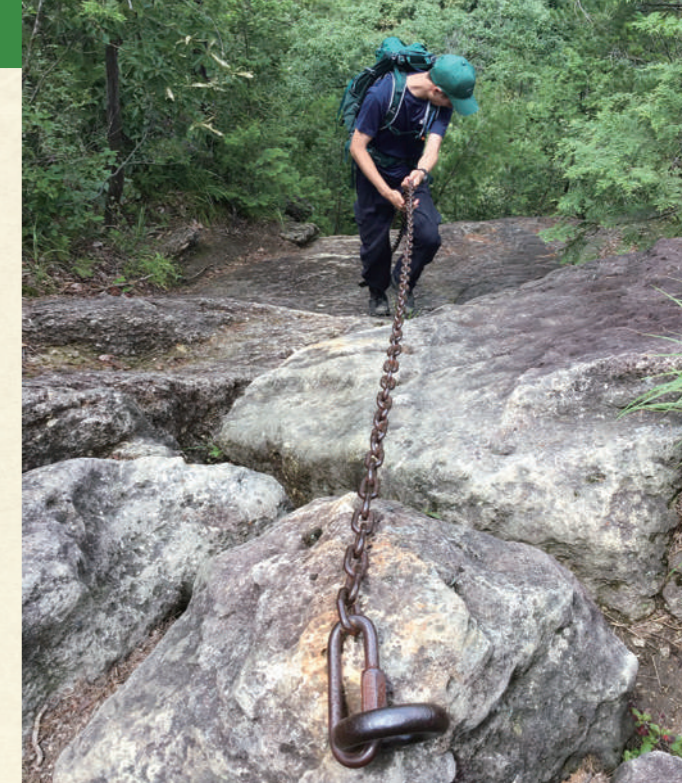
＊

下山しながら、茂木に機動パトロールの成り立ちについて聞いてみた。

「はじめは身近な交通事故や事件が立て続いて、『なにかできることはないか』と同級生と自警団を結成したんです。最初は警察や消防隊には相手にされませんでしたが、何度も指導を仰ぎにいわせてもらいました。今では市や警察からの出動依頼も多いです。岩山はトレーニングのために歩いていたんですが、歩いているうちに危険な箇所が多いことに気づいて、見回りや道の整備を始めました」

消防隊直伝の救助活動を行うのは正隊員の6人のみ。正隊員になるには、自衛隊の入隊試験を参考にした正隊員試験に合格しなければならない。

普段は仕事や学業があるなかで、隊員は町の安全のために日夜訓練し、奔走する。その原動力はなんなのか。「う～ん、なんででしょうね（笑）。町の人たちから感謝されるのはうれしいですし、事故を減らせたという実感があると



上/岩山最大の難所、猿岩。鎖を頼りに約70m下る。過去に何度も遭難事故が起きている場所で、隊員たちは日頃から厳重な注意を呼び掛けている 下/岩場で懸垂下降の練習をする若き隊員たち。正隊員になるには確かなレスキュー技術が必要となる

次もがんばれますね」(茂木)

当時中学生の一途な思いからはじまった活動は、今や鹿沼市にかかせない存在になっている。(西村 怜=写真・文/『山と溪谷』2019年9月号に掲載した記事を編集して再掲)

鹿沼市 岩山 [栃木県鹿沼市] 機動パトロール隊

30

認定年 2018年
助成金 36万円
助成内容 安全登山啓発活動など

安全に岩山を楽しんでもらうために日々活動しています

助成金は、老朽化した登山ポストの取替え及び安全啓発ポスター・ピラの作成、小中高生向け安全登山講習会・ガイドマップの作成に使用しました。また、自治体と協議し、放置されていた猿岩迂回コース・新たな下山道等の整備を行い、安全登山の実現に努めています。現在は、定期巡回や登山ポストの改良、登山道各箇所へ中継点看板の設置、登山ノート設置及び管理に継続的に取り組んでいます。今後も安全登山を推進していくために巡回能力の強化や自然体験学習をはじめ、教育や啓発活動について積極的に実施する予定です。



登山者に安全登山を呼びかける機動パトロール隊員

【今後の課題】岩山のゴミ問題、猿岩の鎖の劣化・滑落、土砂崩れなどによる危険に対する措置を講じることが課題です。

ご挨拶

日本山岳遺産基金は2010年の創設から10年を迎えることができました。この10年間のわれわれの歩みを、資金面から支えてくださった賛助会員と多くの寄付を賜った皆様、当基金の方向性や日本山岳遺産の認定についての確に助言いただいたアドバイザリーボードの皆様、各認定地で活動続ける認定団体の皆様、そして日本の山と自然を愛するすべての皆様に、心より御礼申し上げます。

10年間で認定した日本山岳遺産は全国で35。毎年の日本山岳遺産認定への申請状況を鑑みれば、まだまだ地域の山を大切に思い、汗を流している人たちが多数いることが感じられます。微力ながら次の10年も、当基金がそういった方々のお役に立てるよう活動を続けて参りたいと考えております。引き続きのご支援、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2020年2月 日本山岳遺産基金事務局

「美しい山を次世代に」 皆様のご寄付をお願いします

日本山岳遺産基金の活動のために、皆様のご寄付によるご支援をお願い致します。
皆様からのご寄付は、日本の山岳環境のための取り組みに使われます。

右記振替口座へ、最寄りのゆうちょ銀行の窓口でお振込みください。なお10万円を超える現金の振り込みの際は、本人確認の書類（運転免許証など）の提示を求められる場合がありますので、あらかじめご準備ください。

■郵便局に備え付けの払込取扱票（青い文字のほう）をご利用ください。恐れ入りますが、手数料はご負担ください。

■助成活動の内容や、助成先団体の活動の様子等は、当基金のホームページで報告させていただきます。

【ゆうちょ銀行 口座記号番号】
00130-8-451049

【加入者名】**日本山岳遺産基金**



日本山岳遺産基金

<https://sangakuisan.yamakei.co.jp/>